

特集① Honda の地域に根ざした交通安全活動

生涯教育として 地域の中で継続的に 取り組むために



Hondaの交通安全情報紙
The Safety Japan
Since 1971

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03(5412)1736
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：千葉英雄
※年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエティブ 安全運転普及本部係
TEL 03(5439)1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

10★11
2009
OCTOBER・NOVEMBER

SJ ホームページは

CONTENTS

- 特集① Honda の地域に根ざした交通安全活動
生涯教育として地域の中で継続的に取り組むために……①
- 特集② 安全運転教育用ソフト・Honda セーフティナビ
「環境」と「安全」にやさしい運転を楽しく学んでいただくために……③
- 危険予測トレーニング (KYT) / 高速道路の合流点で……④
- The 教材 / 「交通安全教育マニュアル」……④
- SJ クイズ……④
- DOCUMENT EYE (25)
- 高速道路で後部座席同乗者のシートベルト着用状況を観察する……⑤
- 地域のチカラ / 茨城県の交通安全活動……⑥
- 現場訪問 / ニッポンレンタカーサービス (株) ……⑦
- TOPICS / 2009 トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉……⑦
- NEWS REVIEW ① / (財)交通安全事故総合分析センター 第12回研究発表会……⑦
- NEWS REVIEW ② / 第41回全国白バイ安全運転競技大会……⑦
- 教育最前線 / (財)日本交通安全教育普及協会 / 月の輪自動車教習所……⑧
- 読者の声……⑧



Honda は子どもから高齢者まで、各年代に応じた交通安全教育を全国展開するため、地域に根ざした新たな活動を推進している。Honda の製作所に活動拠点 (普及ブロック) を置き、地域の方々と協働しながら活動を展開するものである。昨年、熊本に始まり、今年4月からは栃木、埼玉、浜松、鈴鹿にも普及ブロックが誕生した。今回は各地区の普及ブロックが中心となり、地域と一体となって進めている交通安全教育の取り組みを紹介する。

栃木普及ブロックが「新町敬老のつどい」の中で実施した「あやとりい 長寿編」のもよう。参加した60名の高齢者がインストラクターの説明を熱心に聞いた

その後、参加者の代表が前に出て、実験が行われた。机の上には内側が見えない筒と、その筒の先に犬のぬいぐるみ置き、犬のぬいぐるみの中にボールを入れる。筒の中のボールを向かって転がします。ボールは道路を走るクルマだと思って、クルマにぶつからないようにぬいぐるみを助けてあげてください」とインストラクター。代表者はぬいぐるみの前に立ち、指導員がボールを筒に入れる。ぬいぐるみを取り上げる前に、ボールはぶつかってしまった。

9月13日、益子駅舎多目的ホール (栃木県益子町) で「新町敬老のつどい」が開催され、益子町内の新町地区に住む60名の高齢者が参加した。このイベントの中で、栃木普及ブロックは「あやとりい 長寿編」を使った交通安全指導を行った。

まずインストラクターが、正しい歩き方と歩く場所、そして道路を横断する時に気をつけてほしいポイントをアドバイスする。「横断する前には必ず止まってから、右・左・右を見ましよう。止まることで呼吸が安定して気持ち悪くなり、通行しているクルマや自転車の状況がよくわかりますよ」。

次に透明な筒で同じ実験を行う。今度はボールが筒から出てくる直前にぬいぐるみを取り上げることができた。「見えなところから、急に出てきたものにごく反応する」と、見

通しが悪い場所では、止まってよく見るようにしよう」。

最後に、動画を使って、同じ速さで歩いている場合、まっすぐな横断と斜め横断では、どちらが渡りきるのに時間がかかるか確認してもらい、「あやとりい 長寿編」は終了した。

すべての交通安全参加者に安全を呼びかける

すべての交通安全参加者に安全を呼びかける



新町自治会長 (益子町議会議員) 上野康雄さん

主催した新町自治会長で益子町議会議員の上野康雄さんは「あやとりい 長寿編」について次のように評価する。「このイベントは毎年開催しています。今年は参加者のみなさんに『交通安全』について学べる時間を設けようと考えました。町役場を通じて『あやとりい 長寿編』のことを聞き、今までにない教育手法だったので取り入れることにしました。『あやとりい 長寿編』では写真やイラスト、動画を使って説明してくれるので、特に高齢者が見て理解しやすい内容になっています。ホンダがクルマを製造・販売するだけでなく、すべての交通参加者に安全を呼びかけていくという取り組みはたいへん良いことだと思います」。

上野さんに「あやとりい 長寿編」を紹介した益子町役場総務課・交通安全教育指導員の薄根千明さんは、「あやとりい 長寿編」について「事故防止の基本である『止まる』『見る』の重要性を高齢者にわかりやすく説明しています。また、実験などもあるので、参加者を飽きさせない工夫があります」と話す。

栃木普及ブロックは「あやとりい 長寿編」を益子町のほか、真岡市と芳賀町でも実施している。栃木普及ブロック・秋元信之リーダーは「今年度は製作所がある真岡市とその周辺地域での活動を定着させることを目指しています。まずは、真岡市をはじめとする



「新町敬老のつどい」で腹話術を使った交通安全講話を行う益子町役場総務課・交通安全教育指導員の薄根千明さん

自治体にはホンダが持っている交通安全教育と手法を説明してきました。どの自治体も高齢歩行者の事故防止が課題となっていたため、『あやとりい 長寿編』は関心を集めました。10月以降は小学生向けの交通安全教育プログラム『あやとりい』も真岡市などの小学校でスタートします」という。

「今は活動している地域の方々に認知され、信頼されることが大切だと考えています。また、私たち自身も、さまざまな経験を積んで指導力を強化していく必要があります。そうしたことをクリアした上で、活動のエリアを宇都宮市など栃木県全体に広げていきたいと思っています。また、こうした活動を受け継いでいただける指導者の養成にも力を入れていきたいと思っています」。



栃木普及ブロックはHondaの二輪販売店のイベントにも協力。栃木県内で開催された試乗会に集まったライダーにAED (Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器) による応急救護について説明した

地域の指導者が持つ課題を一緒に解決していく

埼玉普及ブロックも高齢者への交通安全教育に力を入れている。10月13日から (財) いきいき埼玉 (埼玉県シルバー人材センター) 連合と連携し、「いきいき運転講座」の普及を開始した。

(財) いきいき埼玉・高齢者就業促進課長の関谷正博さんは今回の取り組みについて、次のように話す。「埼玉県

※1 あやとりい=鈴鹿普及ブロックが鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児向けの「あやとりい ひよこ編」、小学3・4年生向けの「あやとりい」、小学生向けの「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とときあかし りかいて いただく」の略。詳細は右記ホームページを参照。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/

内には、シルバ
ー人材センター
または高齢者事
業団と呼ばれる
団体が各市町村



(財) いきいき埼玉
高齢者就業促進課長
関谷正博さん

に68団体あります。60歳以上の働く意欲の
ある高齢者が会員として、約5万人登録し
ていて、臨時的・短期的また軽易な業務に
就業しています。近年、会員の交通事故が
増加しており、事故防止のためには、一人
ひとりの安全意識を高めることが重要だと
考えています。今回、埼玉普及ブロックに
協力を得て、会員の交通事故防止に取り組
むことにしました。『いきいき運転講座』
は、一方的に話を聞くだけではなく、受講
者自身が主体的に考え学ぶカリキュラムと
聞き、参加者の交通安全意識を高めるのに
有効であると考えています。68団体から1
名ずつ参加してもらい、この方々には各団
体での交通安全の面でリーダーになってい
ただくことを期待しています。』

埼玉普及ブロック・猪俣薫リーダーは
「いきいき運転講座」が財団に定着するま
で、継続的にフォローしていきたい」と話す。
「自動車業界としての活動、さらにホン
ダの企業活動として安全運転の普及に取り
組んでいることを聞きし、とても社会的
に重要な活動だと思いました。高齢者の事
故をいかに防止するかが私たちの課題で
す。これからも、会員の事故防止のために
協力してほしい」と、いきいき埼玉の関谷
さんは埼玉普及ブロックに期待を寄せた。

一方、子どもへの普及活動では、狭山市
の交通安全指導員に「あやとりい」の指導
ノウハウを提供している。狭山市には17名
の指導員があり、実際に小学校における交
通安全指導の中に取り入れられているようだ。
「幼いお子様が亡くなるような痛ましい事
故を一件でも減らしたい」と猪俣リーダー。
「交通安全教育の現場で活躍している指導



埼玉普及ブロックは5月17日、東
京・お台場で開かれた「モーター
サイクルフェスティバル」で親子バ
イク教室を実施し、60名を超える親子
を指導

者の方は、困りごとや悩みごとをお持ちの
はず。私たちは、それらを一緒になっ
て解決していくというスタンスで、地域の
方々と連携して交通安全教育を推進してい
きたいと思っています。』

地域の実態に合わせて ノウハウを提供

浜松普及ブロックは、高齢者の事故とと
もに学生の自転車事故が浜松エリアで多い
ことから、地元の浜松中央警察署と連携し
て、学生への交通安全教育に取り組んでい
る。浜松市内にある静岡県立浜松工業高等
学校、中野学園オイスカ高等学校、静岡県
立気賀高等学校で、浜松普及ブロックのイ
ンストラクターがホンダ自転車シミュレー
ターを活用して自転車の安全な乗り方を生
徒に指導した。10月には中学校でも同様の
自転車教育を実施した。

浜松普及ブロックが連携している浜松中
央警察署・静岡県係長交通安全指導員の村
越浩美さんは「自転車シミュレーターは危
険な乗り方をしたらどうなるか安全に体験
できるので、中学生・高校生への指導に有
効だと感じました。また、他の生徒の体験
の様子を画面で見ることができ、どのよう
な運転が危険なのか生徒自身に気づいても
らえると思います」と自転車シミュレータ
ーによる教育効果を語る。「ホンダは交通
事故の削減・防止という私たちと同じ目標
を持ち、長年にわたる活動の歴史の中で築
き上げてきた実績があるので、参考になる
点は指導に取り
入れています。』



浜松中央警察署・静岡県
係長交通安全指導員
村越浩美さん

浜松普及ブ
ロック・錦織朝史
リーダーは「私
たちが指導するだけでは、活動に限界があ
るので、ホンダのノウハウを提供すること
で新たな指導者を各地域に養成していくこ
とがこれからも重要だと思っています。静
岡県の富士宮地区では交通安全指導員の方
が高齢者の交通安全教室を実施するとい
うことで、10月に『いきいき運転講座』の
ノウハウを提供しました。今年度は、浜松市
内を中心とした活動をしてきましたが、こ



浜松普及ブロックが中野学園オイスカ高校で実
施した自転車安全運転教室。生徒にHonda自
転車シミュレーターを体験してもらうだけで
なく、インストラクターが高校付近の危険箇所
、交差点の通行方法など写真やイラストを交えて
説明した

ホンダのノウハウを 受け継ぐ指導者をつくる

鈴鹿普及ブロックも今年4月の発足であ
るが、前身である鈴鹿モビリティ研究会か
らの16年の実績がある。鈴鹿市と協力しな
がら市内の事故分析を行い、それをもとに
「あやとりい」などの交通安全教育プログ
ラムの開発を担ってきた。さらに毎年、鈴
鹿市内の幼児から小・中・高校生、高齢者
を対象に、年間約200回の交通安全教室
を開催し、実際に指導を行っている。

「鈴鹿普及ブロックは既に子どもや高齢
者への交通安全教育のノウハウを持ってい
ます。他の地区に普及ブロックが立ち上が
った今年度に限っては、自分たちの近隣地
区だけでなく、他の普及ブロックの活動を
サポートすることも重要な責務です」と鈴
鹿普及ブロック・喜井美雄リーダーは
う。8月6日には栃木普及ブロックと連携
して、茨城県における「平成21年度幼児交
通安全教育指導者講習会」での講演を行っ
ている（6面参照）。

また、鈴鹿普及ブロックでは提携してい
る指定自動車教習所の活動にも協力してい
る。7月16日、デルタ自動車教習所（京都
市右京区）が京都府立朱雀高等学校の生徒
を対象に開催した自転車交通安全教室で
は、鈴鹿普及ブロックのインストラクター
がホンダ自転車シミュレーターを活用し
て、自転車運転時の危険予測のポイントを
説明した。
10月3日には、三重県四日市市が主催す
る「レッツトライしてんしゃ」というイベ

ントに協力。「この中で幼
児と小学生を対象にした自
転車教室を行いました。指
導は私たちではなく、四日
市市の交通安全指導員が担
当します。この交通安全指
導員のみさんは、鈴鹿普
及ブロックにホンダの自転
車教育のノウハウを学びに
来てくれています。こうし

今年度は高
校生・大学生
向けの安全運
転普及活動も
始まってい
る。まず、熊
本県立大津高
等学校で二輪
通学者53名を
対象に、7月13日、15日、二輪安全運転教
室を実施した。内容は座学だけではなく、
パイロンスラローム、急制動など「走る・
曲がる・止まる」という基本を身につける
ための実技も行われる。被害事故にあうケ
ースが多いという同校の事故実態をふま
え、熊本普及ブロックのインストラクター
がクルマから見た死角について生徒に体験
してもらいながら説明した。10月には、立
命館アジア太平洋大学（APU・大分県別
府市）でも二輪通学者に対する安全運転教
室を実施した。



熊本普及ブロックが熊本県立大津高校で
実施した二輪安全運転教室



鈴鹿普及ブロックがデルタ自動車教
習所に協力して行った京都府立朱雀
高校での自転車交通安全教室

高校・大学で 二輪通学者への安全運転 普及活動を開始

熊本普及ブロックは昨年4月に活動を開
始して、1年半が経過した。熊本普及ブ
ロック・高橋岳博リーダーは「熊輪会と協
力して実施している、各お取引先様の従業
員とそのご家族等地域の住民を対象とし
た『親子交通安全教室』は、昨年度の4地区
から今年度は8地区まで拡大しています。
また、熊本県交通安全協会の交通安全教育
講習員11名に『あやとりい』の指導ノウ
ハウを提供しました。現在、講習員の方々は
それぞれの担当地区で『あやとりい』を展
開しています」と話す。

「他の普及ブロックの牽引役として、地
域で安全運転普及活動を行う仕組みづく
りといった有益な情報を積極的に発信してい
くとともに、新しい活動を率先して実施し
ていく必要があると思います。熊本県にと
どまらず、九州地区全体へ活動を展開して
いく布石の一年にしたい」と高橋リーダ
ーは今年度の目標を語る。
交通安全教育は、生涯教育として地域の
中で継続的に取り組むことが必要である。
それを実現していくために、栃木、埼玉、
浜松、鈴鹿、熊本の各普及ブロックでは、
子どもから高齢者まで各年代に応じた交通
安全教育を実践する体制を整え、各地の自
治体や警察、団体と連携し、全国に活動を
拡大していきたい考えた。

各地区普及ブロックの問い合わせ先
Hondaのノウハウを活用した交通安全教育
を実施したいという自治体、警察、団体の方
は最寄りの普及ブロックにご相談ください。
● 栃木普及ブロック（栃木県真岡市）
TEL. 0285-84-7114
● 埼玉普及ブロック（埼玉県狭山市）
TEL. 04-2955-5323
● 浜松普及ブロック（静岡県浜松市）
TEL. 053-439-2316
● 鈴鹿普及ブロック（三重県鈴鹿市）
TEL. 059-370-6263
● 熊本普及ブロック（熊本県大津町）
TEL. 096-293-3206

※2 いきいき運転講座＝（社）日本自動車工業会が開発した高齢ドライバー向け交通安全教育プログラム。4種類の「交通安全トレーニング」と、「交通脳トレ」で構成される。詳細は右記ホームページを参照。http://www.jama.or.jp
※3 Honda自転車シミュレーター＝自転車利用者のマナーや危険予測能力を高めることを目的に、Hondaが開発した体験型教育機器。詳しくは右記ホームページを参照。http://www.honda.co.jp/simulator/
※4 熊輪会＝本田技研工業（株）熊本製作所および九州エリアの協力会社38社で構成される組織。会員企業38社のうち9社が地域で安全運転普及活動を実践するためのHondaパートナーシップ・インストラクターを養成している。

特集② 安全運転教育用ソフト・Hondaセーフティナビ

「環境」と「安全」にやさしい運転を 楽しく学んでいただくために

Hondaは「Hondaセーフティナビ（以下、Sナビ）」を今年5月に発売した。これはHondaのシミュレーター技術を最大限に活かし、より幅広い普及をめざして開発された安全運転教育用ソフトである。このSナビを導入し、エコドライブや安全運転の教育に活用している四輪販売会社や団体を紹介する。



Honda Cars 神戸では9月19～23日に全店でSナビを使ったコンテストを実施。期間中、多くのお客様がSナビを体験した



ソフトと推奨ハードがセットになったパッケージキットは29万8000円(消費税込み)。下記ホームページにてHondaセーフティナビの動画をご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/simulator/>

Sナビは市販のパソコン、ハンドルやペダルなどと組み合わせることで、簡易型シミュレーターとして手軽にエコドライブや安全運転のポイントを学ぶことが特徴である。机一つほどのスペースで使用でき、画面と音声に従うだけで、指導者がいなくても学習することが可能。燃費の良い運転方法を理解しながらエコドライブのポイントを学べる「エコドライブ」と、雪道や夜間・雨天時などさまざまな道路状況で想定される危険を踏まえた安全運転のポイントを学べる「SD(セーフティ・ドライビング)コーチャー」の2種類で構成されている。

全ショールームにSナビを設置

ホンダの四輪販売会社の中にはSナビを導入し、来店したお客様への店頭指導に活用しているところがある。その1つが、ホンダカーズ神戸(本社・兵庫県西宮市)だ。Sナビ導入の背景を同社総務課長の財前辰也さんは次のように話す。

「私たちはSナビの『エコドライブ』とい

う機能に興味を持ちました。来店されるお客様のエコへの関心は高くなっています。Sナビをショールーム内に設置することで、多くのお客様にエコドライブを気軽に学んでいただけると考えました。」

ホンダカーズ神戸では12あるすべてのショールームにSナビを設置し、9月から運用を開始している。「Sナビの『SDコーチャー』の中にある『ドライブ検定コース』では、走行後に自分の運転内容などが点数化されます。その機能を使って、一定の点数をクリアしたら、プレゼントを差し上げるといったコンテストを、9月19日から23日の連休期間中に実施したところ、多くのお客様にSナビを体験していただくことができました。」



Honda Cars 神戸は12あるすべてのショールームにSナビを設置

9月20日、ホンダカーズ神戸・西宮店でSナビを体験したお客様お二人にお話をうかがった。「ドライブ検定コース」にチャレンジした松田佑介さんは「こうしたソフトを使って、自分が安全運転できているかどうか、気軽にチェックできる機会を設けるのは良いことだと思います」と語る。「エコドライブ」を体験した辰巳和彦さんは「今までクルマに『フューエルカット』という機能があることを知りませんでした。今回、Sナビによってこうしたエコドライブの知識を学べ、スタッフの方からも燃費を向上させる運転についてアドバイスをもらうことができ、たいへん有意義でした」と感想を述べた。

エコドライブを多くのお客様に伝えたい

ホンダカーズ神戸・西宮店では、毎

Hondaの四輪販売会社でエコドライブを指導できるスタッフを育成

Hondaでは、お客様にエコドライブのアドバイスができる四輪販売会社のスタッフを養成している。今年4月から全国各地の四輪販売会社で、「エコドライブアドバイス研修」が実施され、9月4日までに297人が受講した。研修では、スタッフが店舗周辺の道路でエコドライブを実践した運転と、そうでない運転での燃費を比較しながら、お客様にアドバイスするためのポイントを学んでいる。



のカタログを見る機会がありました。運転状況を採点してくれる機能などがあるので、これは高齢者の方々に自分の運転を振り返っていただくのに最適な教材だと感じ、Sナビを導入したのです。9月1日には、Sナビを活用した初めての交通マナー教室を公民館で開催し、地元老人クラブ

の代表者や自治体の交通安全担当者、高齢者リーダーにSナビを体験していただきました」と同協会事務局長の松本正輝さんはいふ。

秋の全国交通安全運動期間中の9月25日、1市3町の交通関係機関・団体から多数が参加して開催された「若狭交通安全大会」でも、会場内にSナビが展示された。体験した来場者からは、「画面の中で事故を起こしてしまいました、それによって右左折する時、何に注意すべきか再確認することができました」という声が聞かれた。

「Sナビは持ち運びが容易で、操作も難しくありません。私たちが老人クラブの会合などにSナビを持ち込めば、多くの高齢者の方々に安全運転教育ができます。当協会の講習会やイベントだけでなく、自治体や警察からの要請があれば、どんどん貸し出ししていきたい」と松本さんはSナビによる安全運転教育をさらに推進していきたいと考えた。



Honda Cars 神戸西宮店 店長・後垣内利弘さん

高齢ドライバーへの教育に役立てる

Sナビを高年齢ドライバーの安全運転教育に活かしているのが、若狭交通安全協会(福井県小浜市)である。

「私たちが管轄している1市3町(小浜市、若狭町、おおい町、高浜町)では、高齢者の事故防止が大きな課題です。自治体との会議で、Sナビ



9月25日に開催された「若狭交通安全大会」では会場にSナビの体験コーナーが設けられ、集まった交通安全関係者が体験した

※1 ドライブ検定コース=画面上にあらわれる検定員の指示により走行体験だけでなく、交通法規に関するクイズが出題され、ゲーム感覚で楽しく安全運転を学べる機能。
※2 フューエルカット=一定以上のエンジン回転でアクセルから足を離すと燃料の供給が停止される機能。燃料を使わずに走行する距離が伸びるので、平均燃費は向上する。
※3 安全ミニ講習会=「日常点検」や「タイヤ交換」など店頭や駐車場などで、日常の安全運転に役立つポイントをお伝えする講習会。

Sナビに関するお問い合わせは安全運転普及本部 教育機器課へ
TEL:048(452)0559 <http://www.honda.co.jp/simulator/>

危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第11回 高速道路の合流点で

活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見ながら、Q1、Q2について意見を出し合います。
- ③ その後、「解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すればいいか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJのホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

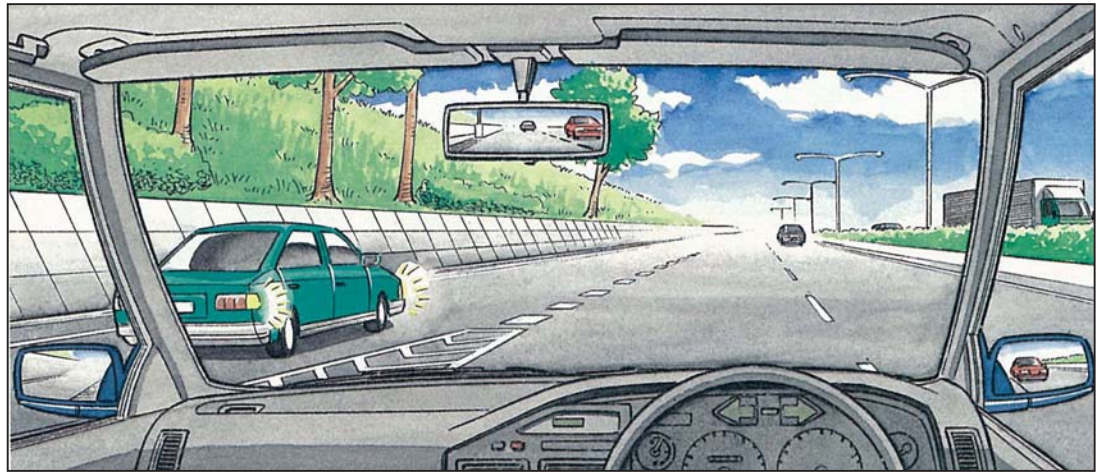
本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL: 03 (5412) 1736



今回のKYTの題材は、Hondaの危険予測トレーニング教材「交通状況を鋭く読む〜危険予測トレーニング(四輪車用)」から抜粋しています。詳細については以下ホームページ参照。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を育てるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、高速道路での安全運転を考えてもらうためのKYTです。企業/団体などでのグループ教育の学習の中で活用してください。



あなたは走行車線を走っています。
加速車線から1台のクルマが合流しようとしています。
どんなことに注意して運転しますか？

正解を1つ、または2つ選んでください

Q1 どのような危険がありますか？

- ① 加速車線のクルマと同じくらいの速度で走れば危険はない
- ② 加速車線から合流するクルマと衝突する
- ③ 追い越し車線に急に車線変更をして、後続車と衝突する

Q2 どのような運転をしますか？

- ① 加速車線のクルマが合流しやすくするため、すぐに追い越し車線に車線変更する
- ② 加速して加速車線のクルマに割り込まれないようにする
- ③ ゆるやかに減速し、加速車線から合流するクルマとの車間距離を確保する

©本田技研工業(株)

SJクイズ?

Q1 平成20年中の高速道路での交通事故件数を車種別にみた場合、最も多いのは次のうちどれ？



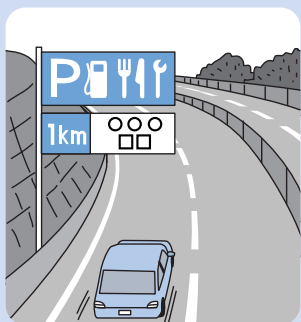
- ① 自動二輪
- ② 軽自動車
- ③ 普通乗用自動車
- ④ 貨物車

Q2 平成20年中の高速道路での交通事故件数を違反別にみた場合、最も多い違反は次のうちどれ？

- ① 前方不注意
- ② 安全不確認
- ③ 最高速度違反
- ④ 車間距離不保持

Q3 高速道路の休憩施設であるサービスエリアは、概ね何kmおきに設置されているでしょう？

- ① 約20km
- ② 約30km
- ③ 約50km
- ④ 約100km



※「解答」は7面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。

ホンダ SJ 検索

The 教材

このコーナーでは、全国各地の自治体や警察、企業・団体などが制作した交通安全教育教材をご紹介します。



「ホットあんしん訪問」マニュアル 4・5ページより

File.4 兵庫県警察本部ホームページ内「交通安全教育マニュアル」

企画・制作：兵庫県警察本部

●ページの紹介

「交通安全教育マニュアル」のページでは、各種交通安全マニュアルがまとめて掲載されている。兵庫県警察本部交通部交通企画課によると、自治体・団体等のリーダーが地域における交通安全教室を実施する際に活用できるよう、テーマ毎に指導のポイントをわかりやすく紹介しているのが特徴という。ホームページからダウンロードすることで一冊の冊子となるように掲載されている。

●教材の特徴

同ページには、複数のマニュアルが掲載されているが、その一部を紹介する。

「自転車の交通安全マニュアル」は、自転車利用者に対し、基本的な知識や損害賠償に至った事故

事例などを指導できる内容となっている。

「ホットあんしん訪問」マニュアルでは、高齢者宅への訪問による交通安全教育の際の心得や注意点、指導内容がまとめられている。

「電動車いすマニュアル」は、電動車いすの正しい取扱いを指導する要領をまとめた指導者用と安全な利用を学習していただく利用者用の2種類が紹介されている。

●ホームページのアクセス方法

兵庫県警察本部ホームページ
<http://www.police.pref.hyogo.jp> から、
安全安心な生活→交通安全教育マニュアル

混合交通を観察する
DOCUMENT EYE series—233

高速道路で後部座席同乗者のシートベルト着用状況を観察する



ある日の午前中、気になる実際の交通状況を観察しました。



シートベルトを着用している後部座席同乗者



シートベルトを着用していない人も多い

Q1

小学生以上の後部座席同乗者のシートベルト着用状況は何%だったでしょうか？

- 観察場所／神奈川県横浜市青葉区 東名高速下り・港北PA付近
- 観察日／9月19日(土曜日)
- 天候／晴れ
- 観察時間／9:00～11:30
- 観察者／3名

シートベルトの着用義務

2008年6月1日から、改正道路交通法により、後部座席でのシートベルト着用が義務化された。高速道路だけでなく一般道路でも自動車に乗る場合は、ドライバーや助手席の同乗者だけでなく、自動車に乗るすべての人がシートベルトを装着する必要がある。
※後部座席の場合、高速道路での違反に限って運転者に行政処分(1点)が科せられる。

(道路交通法第71条の3第2項抜粋)

運転者は、シートベルトを装着しない者を乗せて自動車を運転してはならない。

ただし、幼児(適切に座席ベルトを装着させるに足りる座高を有するものを除く)を当該乗車装置に乗車させるとき、疾病のため座席ベルトを装着させることが療養上適当でない者を当該乗車装置に乗車させるとき、その他政令で定めるやむを得ない理由があるときは、この限りでない。

Q2



後部座席でシートベルトを着用していた方の着用理由は何でしょうか？

★港北PAを利用するクルマの中から、後部座席同乗者でシートベルトを着用していた方にうかがいました。

高齢者に着用の割合が高かった

↓ 解答・解説

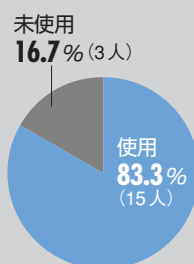
実際の観察から

Q1の解答：36.8%

●後部座席同乗者のシートベルト着用状況

	着用	非着用
小学生	22.0% (11人)	78.0% (39人)
中学生 高校生	25.9% (7人)	74.1% (20人)
成人	38.8% (69人)	61.2% (109人)
高齢者	76.5% (13人)	23.5% (4人)
小計	36.8% (100人)	63.2% (172人)

●後部座席同乗者(幼児)のチャイルドシート使用状況



※幼児(6歳未満)、小学生(6～12歳)、中学生・高校生(13～18歳)、成人(19～64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による

●2時間半の観察で、シートベルト・チャイルドシートの有無を確認できた後部座席同乗者は計290人。幼児を除く小学生以上は272人。シートベルトを着用していたのは、小学生11人(22.0%)、中学生・高校生7人(25.9%)、成人69人(38.8%)、高齢者13人(76.5%)の計100人(36.8%)だった。幼児は、18人で、そのうち15人(83.3%)がチャイルドシートを使用していた。

- 他の年齢層に比べ、高齢者の着用率が高かった。一方、小学生および中・高生の着用率は低かった。
- シルバーウィーク初日のため、観察場所付近の道路は渋滞し、クルマは低速で走行していた。
- シートベルトやチャイルドシートをしていない子どもの中には、走行中に車内で立ち上がる姿も見られた。
- 幼児のチャイルドシート使用率は、小学生以上のシートベルトの着用率に比べ高かったが、保護者が幼児を抱いて乗車している例もあった。

- 本紙では、昨年夏、同地点で同様の観察をした(2008年9月号DOCUMENT EYE参照)。その結果は、小学生以上の後部座席同乗者のシートベルト着用率は29.0%だった。今回の着用率は36.8%で、比較すると前回より上昇している。
- 警察庁とJAFとの合同による「シートベルト着用状況 全国調査」では後部座席同乗者の着用率は62.5%(2008年10月・高速自動車道等)だった。また「チャイルドシート使用 全国調査」ではチャイルドシート使用率は54.8%(2009年4月)だった。



チャイルドシートを使用している子ども

Q2の解答：

主な理由

- ①法律で決められているから
- ②着用しないと危険だから(安全のために)
- ③その他(ドライバー(息子)に勧められたから、運転席や助手席に座るときの習慣で)

※後部座席同乗者でシートベルトを着用していた方11名に回答をいただきました。

【解説】

後部座席シートベルトの着用者の話では、「高速でも一般道でも法律で決められているから、しています」という声が一番多かった。しかし中には、「昨年、法律で決められてから高速道路ではしています。一般道では、罰則もないし窮屈なのでしていません」(30代・女性)という回答もあった。

一方で、「安全のためにしています。着用しないと、事故にあったときに座席から放り出される危険があります。だから、一般道でもしています」(50代・女性)という意見があった。シートベルト非着用の危険性を知ってから、着用を心がけているという。法律の周知だけでなく、なぜシートベルトの着用が必要なのかを伝えていくことも重要となる。

また、「ドライバー(息子)に勧められたから」(60代・女性)という方もいた。ドライバーが同乗者に呼びかけることも同乗者の安全を守る上で有効だと言える。(2008年7月号特集参照)



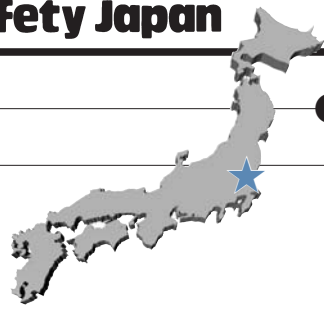
チャイルドシートを使用せず、乗車中に立ち上がる子ども

ここがポイント

- クルマに乗ったら全席で、シートベルトを着用する。
- 後部座席でシートベルトを着用していないと、万一の時、「自分自身が大きな被害にあう」「車外へ放出されてしまう」「前席同乗者への加害となる」などの危険性がある。自分や同乗者の命を守るためにシートベルトは必ず着用する。
- 自分だけでなく、同乗者にもシートベルトの着用を勧めることが大切。
- 保護者の抱っこでは、万一の時、子どもの体重を支えきれない。子どもにはチャイルドシートを使用する。

地域のチカラ

●茨城県の交通安全活動



安全なまちづくりの観点から 進められる交通安全啓発の取組み

茨城県は、県、事業者及び県民が一体となって安全なまちづくりに取り組んでいる。その中心となっているのが、茨城県生活環境部生活文化課安全なまちづくり推進室だ。同室は防犯対策や犯罪被害者支援、そして交通安全を担当している。

8月6日、安全なまちづくり推進室は「平成21年度幼児交通安全教育指導者講習会」を県民文化センター（茨城県水戸市）で開催した。「この講習会は県内の幼稚園教諭や保育士、交通安全指導員等に、幼児の交通事故を防止するための効果的な交通安全教育を学んでもらうことを目的としてい



8月6日に開催された「平成21年度幼児交通安全教育指導者講習会」の様子。鈴鹿市交通安全指導員が会場の参加者を幼児に見立て「あやとりい」を実演

ます。今回は、ホンダの幼児向け交通安全教育プログラム『あやとりい、ひよこ編（以下、あやとりい）』を紹介することにしました」と同室主査の国府田さんは話す。

幼稚園教諭や保育士に「あやとりい」を紹介

講習会では、本田技研工業（株）鈴鹿普及プロダクトの喜井美雄リーダーが、「幼児は知識と行動が一致しません。交通ルールを知っていても、その通りに行動できないことがあります。だから、繰り返し教えるこ



とが必要なのです。子どもを座りっぱなしにさせないで、必ず教えたことを体験させるようにしてください」と、幼児の行動特性や効果的な指導方法について説明した。次に、鈴鹿市交通安全指導員による「あやとりい」の実演が行われた。その後、参加者の代表が指導者役となり、「あやとりい」を実践。『どびだしているこ、だれかな』のワークシートを使いながら、幼児には道路を渡る時、「止まる」「渡る合図（手をあげる）」「左右を確かめる」「渡る」という手順で教えていく。最後に、幼児教育の現場で活用できるように「あやとりい」が参加者全員に配付された。

「地域安全マップ」作成を 小学校で推進

国府田さんは、「あやとりい」の長所として、指導者が一方的に話すだけでなく、子どもが自分たちで考え、判断するという、子ども主体のプログラムになっている点を挙げる。「今回は『あやとりい』の実演をやっていたので、参加者にもわかりやすかったと思います。現場で活用してみたいという参加者もいました」。

子どもを事故や犯罪から守るための活動に力を入れる茨城県では毎年4月、新小学1年生の保護者に子どもの交通安全啓発資料を配付している。小学生、特に1年生の交通事故の特徴について解説し、保護者に事故防止対策を伝えている。小学1年生の交通事故は歩行中が多いため、事故を防ぐために、「どんなことを（基本的な交通ルール等）」「どうやって（指導のステップ）教えるかを伝えるのが目的だ。そして、クルマに同乗中の事故も多いこともあり、全席でのシートベルト着用が必要」と訴えている。

また、茨城県では各家庭や小学校での「地域安全マップ」の作成を推進している。



「地域安全マップ」の作成方法や、マップづくりに必要なマークなどの素材は茨城県のホームページで提供されている。
<http://www.anzen.pref.ibaraki.jp/kids/map.htm>



茨城県内の小学校で普及が進んでいる「地域安全マップ」(写真は昨年度の表彰作品)

「危険な場所を見つける目を養い、事故や犯罪から自分を守る力を子どもたちに身につけてもらうのがねらいです。小学校低学年であれば親子で、高学年であればクラスや友人同士でつくることが勧められています。『ここに気をつけなければいいか』『なぜ注意しなければならぬのか』、家族やクラスで話し合いながら、つくってほしいと思っています」と国府田さん。「地域安全マップ」のつくり方や、マップづくりに必要なマークなどの素材は県のホームページを通じて提供しています。平成18年からは、県内の小学校から作成した「地域安全マップ」を募集し、優秀作品に対し「知事賞」など4つの賞で表彰しています。

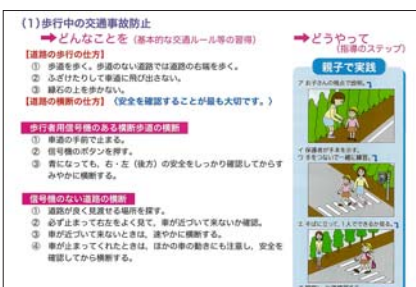
「隣の栃木県にホンダの普及プロダクトができたことで、ホンダが蓄積している交通安全教育に関するノウハウを得やすくなりました。自転車シミュレーターもその一つです。県の交通安全対策に、うまく取り入れていきたい」と国府田さんはいう。

シミュレーターを 活用した 中高生への自転車教育

中学生・高校生への自転車教育について、茨城県ではホンダ自転車シミュレーターを学校へ持ち込んでの交通安全指導を計画している。

「高齢ドライバーによる交通事故防止は茨城県でも大きな課題となっている。その対策の1つとして昨年度から開始したが、『シルバー無事故・無違反チャレンジ1000』だ。これは、県内在住の高齢者（65歳以上）が3人1組でチームとなり、1000日間の無事故・無違反を目指すという交通安全運動である。

高齢ドライバーの 事故防止への取組み



毎年4月、新小学1年生の保護者に配付している交通安全啓発資料(抜粋)。歩行中の事故を防ぐため、子どもに伝えてほしいポイントがまとめられている

現場訪問

●ニッポンレンタカーサービス(株)

従業員一人ひとりに安全運転を願う 気持ちを込めてもらおうために

ニッポンレンタカーサービス(株)は、日本を代表する鉄道・バス・航空会社などの基幹交通機関の賛同を得て、国内最大級のサービスネットワークを展開しているレンタカー会社である。

全は元より、従業員の安全運転教育に力を注いでいる。交通事業者の社会的責任として、深刻な経済情勢の中、安全運転教育に対する経費を削減せず、むしろ増やしているという。

狭い場所での車庫入れ・縦列駐車のコツを身につける受講者。運転に慣れていないお客様にわかりやすくアドバイスするためのポイントも学ぶ



安全な車間距離のとり方を考えるための反応制動



夜間走行では、対向車の前照灯の光の眩しさのために前にいる歩行者が見えなくなる蒸発現象などを体験

従業員への安全運転教育を重視している背景を、ニッポンレンタカーサービス(株)の平田新吾会長は次のように話す。「以前は、OJTによる先輩社員からの現場研修が主だったため、現場では適切な指導ができていないケースもありました。これでは、お客様に誤った運転方法を伝えてしまうことにもなりかねません。そこで、全国の営業所の所長クラスを鈴木サーキット交通安全センターに集めて、安全運転講習会を行うことにしました。お客様に安全運転をしていただく



ふんわりアクセル「eスタート」など、教室で学んだエコドライブに効果のある運転方法をコースで試し、実際に燃費が向上していくことを受講者が確認する

くために、従業員一人ひとりに安全運転を願う気持ちを浸透させるためです」。

今年の安全運転講習会は9月15日、16日の両日に開催され、34名の受講者は安全な車間距離のとり方、エコと安全を両立させる運転方法、狭い場所での運転、夜間の安全走行のポイントなどを学んだ。

毎年、受講者の激励に訪れているという平田会長は、参加体験型の教育によって、事故を防ぐための運転を受講者自身が考え、危険予測能力を高めることができる鈴鹿のカリキュラムを評価する。「実技を通して自分が実際に体験することで、お客様や現場の従業員に適切なアドバイスができるはず

です」。



ニッポンレンタカーサービス(株) 平田新吾会長

この他、同社は2007年12月より各地域の自動車教習所など、全国の交通安全教育施設の協力を得て、アルバイトを含めた全従業員に実車を使用した安全運転教育も実施している。これまでに全従業員の9割に当たる約2700名が受講した。

「お客様を送り出す時には必ず『無事故でお帰りください』と声をかけています。その言葉を全従業員が常に気持ちを込めて伝えるようになることが、お客様の安全確保につながると考えています」と平田会長は力強く語った。

TOPICS

「組織内交通事故防止は環境が大事」



パネルディスカッションの模様

8月28日、本田技研工業(株)和光ビル1階で、「09トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉」が開催された(主催:交通安全教育センター)。今年の特テーマは「組織内交通事故防止は環境が大事」。

開会式では主催者を代表し河野光彦(株)レインボーマーターズスクール代表取締役社長が挨拶。村山幸央・埼玉県警察本部交通部交通部長が来賓挨拶を述べた。

続いて、春日伸予・芝浦工業大学工学部教授による講演「安全運転に必要なマネージメント」特に心理的側面から」が行われた。春日氏は、安全運転に必要な「気づき」として①自分の特性、②危険の具体的な内容、③自分の特性と危険との関係、④対処方法の4つを挙げ、気づきを促すことで自分をコントロールする能力が高まることを説明。気づきを促すエコドライブ活動の成功例を紹介した。また、性格特性やストレス状態といった心理的要因が気づきの効果が薄れる原因となることを伝えた。

次に事例発表が行われ、土田義章・

神田ホールディングス(株)品質安全管理室課長代理が「セーフティアドバイザーの誕生」をテーマに、社内にてセーフティアドバイザーを養成し交通事故防止活動を行っている様子や、エコドライブ運動、運行管理者研修会、事故再発防止研修会、飲酒運転撲滅活動など様々な取り組みを行っている事例を紹介した。

事例発表の後には、野村邦丸(株)文化放送編成局アナウンス部長がコディネーターを務め、パネルディスカッションが行われた。パネリストは、春日氏、土田氏に加え、生田泰博・ニッポンレンタカーアーバンネット(株)車輻部事故防止対策課係長、澤登真珠枝・埼玉県警察本部交通部交通安全企画課課長補佐埼玉県警部補佐埼玉県警部



澤登真珠枝・埼玉県警察本部交通部交通安全企画課課長補佐埼玉県警部 生田泰博・ニッポンレンタカーアーバンネット(株)車輻部事故防止対策課係長 野村邦丸・(株)文化放送編成局アナウンス部長 土田義章・神田ホールディングス(株)品質安全管理室課長代理 春日伸予・芝浦工業大学工学部教授

NEWS REVIEW

1 ●(財)交通事故総合分析センター 第12回交通事故調査・分析研究発表会 交通事故に関する各種調査・分析研究を発表



10月1日、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて(財)交通事故総合分析センター主催の「第12回交通事故調査・分析研究発表会」が開催された。この研究発表会は、同センターが行った交通事故に関する各種調査・分析研究の成果を交通安全対策に活用してもらうことを目的に毎年行われている。小田村初理事長による開催挨拶の後、以下の5つの研究発表が行われた。

1)「事故分析からみた車両の安全対策」米澤英樹・

- 車両分科会会長
2)「歩行者の傷害程度に影響する要因の検討」吉田伸一・主任研究員
3)「コンピュータを用いた事故再現による右直事故の分析」木下義彦・前主任研究員(現・(株)本田技術研究所四輪R&Dセンター主任研究員)
4)「四輪車の電柱への衝突事故分析」鈴木陽介・研究員
5)「人的要因からみた長寿ドライバーの交通事故の特徴」三井達郎・研究部担当部長
「人的要因からみた長寿ドライバーの交通事故の特徴」では、長寿ドライバー(75歳以上)は信号無視やブレーキ操作不適による事故を起こしやすい傾向があることが報告された。また、信号無視の原因として「考え事など他に気をとられたため」、ブレーキ操作不適の原因として「病気により足が思うように動かなかった」などが挙げられた。

2 ●第41回全国白バイ安全運転競技大会 安全運転技能の最高峰を全国の白バイ隊員が競う

10月10日、11日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所(茨城県ひたちなか市)にて第41回全国白バイ安全運転競技大会(主催:警察庁)が開催された。この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、昭和44年より毎年実施されている。今年は、47都道府県警察等から、女性隊員38名を含

む188名の選手が参加。2日間で計4種目の競技で熱戦が繰り広げられ、延べ約6700人が観戦した。

主な結果は以下の通り。

- 団体の部
(第1部・9都府県警察) 優勝/千葉県、第2位/愛知県、第3位/埼玉県
(第2部・38道府県警察等) 優勝/群馬県、第2位/鹿児島県、第3位/大分県
●個人競技の部
(男性の部) 優勝/笹野裕也(千葉県)
(女性の部) 優勝/大辻綾美(兵庫県)



教育最前線

連載 14

●(財)日本交通安全教育普及協会/月の輪自動車教習所・「家族を守ろう!セーフティーセミナー」

“交通安全教育は家庭から” 学んだ安全運転のポイントを家族に広げる

「家族を守ろう!セーフティーセミナー」の内容 (月の輪自動車教習所の例)

1 座学

座学では、「前回クルマのタイヤの空気圧を充填したのはいつですか?」などの問いを交えながら、日頃からのタイヤ整備の重要性を伝える。

また、自転車の点検箇所(下記参照)と、点検のポイントを紹介した。

ブ……ブレーキはよく効きますか?

タ……タイヤに空気はしっかり入っていますか? タイヤはすり減っていませんか?

ハ……ハンドルは、タイヤと直角に取りつけられていますか?

シャ……車体(ペダル・サドル・チェーン・反射器材など)が壊れていませんか?

ベル……ベル(警告器)はちゃんと鳴りますか?



2 スキッド・ABS体験

最初に、教習所の指導員がABSの装備されていないクルマとされているクルマで、滑りやすい路面で急ブレーキをかけるとどうなるかを実演。ABSなしの場合、ぬれた路面上でスピンしてしまうことを見せる。また、ABSありのクルマは、急ブレーキをしっかりと踏むことで、きちんと止まることができた。

次に、万一の時にすばやく急ブレーキをかけられるよう、日頃からすぐに強くブレーキを踏むことのできる姿勢で運転することが重要であることを説明し、シートに深く腰かける正しい運転姿勢を紹介。続いて受講者がクルマに乗車し、滑りやすい路面で、急ブレーキとハンドル操作を体験した。



3 飲酒メガネ体験

受講者が、パイロンで作った狭路を、普通の状態と、飲酒メガネをかけた状態で走行し、飲酒運転の危険性を体験。ほとんどの参加者が、飲酒メガネをかけての運転ではパイロンにぶつかった。

指導員は、飲酒運転がまだゼロではない現状を紹介。飲酒メガネでは視野の体験だけだが、実際に飲酒すると判断や操作の面にも影響があり、さらに危険であることを説明した。



4 タイヤ点検

(株)ブリヂストンのインストラクターが、タイヤの空気圧は放っておいても減ってしまうことを説明。タイヤの空気圧が足りないと事故につながりやすい上、燃費が悪くなるので、クルマのドア付近や、取扱説明書に書いてある指定空気圧を確認し、販売店やガソリンスタンドなどで月1回の点検をすることを推奨した。

また、タイヤの溝が浅くなるとスリップしやすくなる。溝が1.6mm以下になるとそのタイヤは使用することを法律で規制されており、スリップサインが出ると、交換が必要であることを伝えた。



5 空気圧(コーナリング体験)

受講者は適正空気圧のクルマと低空気圧のクルマでコーナリング走行を行い、乗り心地やハンドル操作に違いがあることを体感した。また、指導員が低空気圧のクルマで40km/hのデモンストレーション走行を行い、タイヤ側面が接地することによりタイヤに傷がつきやすくなるなどの危険性を確認した。



(財)日本交通安全教育普及協会は、自動車教習所と「交通安全教育は家庭から」をテーマに、「家族を守ろう!セーフティーセミナー」を主催、(株)ブリヂストンの協力の元に開催している。平成21年度は、全国15カ所で開催



バーストしたタイヤを見せながら、タイヤ点検の重要性を伝えた

を予定している。

9月24日は、月の輪自動車教習所で地域の方に呼びかけ「家族を守ろう!セーフティーセミナー」が開催された(主催…(財)日本交通安全教育普及協会・月の輪自動車教習所 共催…瀬田ライオンズクラブ・大津警察署、協力…(株)ブリヂストン)。

ポイント①

体験から気づいてもいい

「家族を守ろう!セーフティーセミナー」では、開催教習所毎に体験のメニューが一部異なる。月の輪自動車教習所の場合

スキッド・ABS(アンチロック・ブレーキ・システム)体験、飲酒メガネ体験を独自で取り入れている。馬場克巳・技能指導課長は、「安全教育では、知識として知っているだけでなく、体験し気づくことによって、自分の行動

の改善や万一の時の行動に役立つところがあります。しっかりと急ブレーキを踏むために運転姿勢が重要であること、飲酒運転がなぜ危険なのかなど、体験から感じてもらいたい」と話す。

ポイント②

基本を見直すことが安全につながる

「クルマのタイヤの点検、自転車の点検、運転姿勢、お酒を飲んだら運転しないなど、基本にしっかりと立ち返ることで防げる交通事故はたくさんあります。まずは、基本を見直していただきたい」と馬場さんは話す。

ポイント③

わかりやすく、日常生活で実践しやすいように伝える

タイヤの点検は、面倒だと思いがちだが、タイヤの空気圧や溝をチェックすることは普段は点検をしないという女性の受講者も簡単に行うことができ

発見したら、空気の充填やタイヤ交換は、販売店やガソリンスタンドに任せるとも可能だ。

また、自転車の点検では点検箇所を「ブタはシヤベル」(※内容1参照)というわかりやすい覚え方で紹介する。覚えやすいので、家庭で子どもと一緒に自転車点検を実践しやすい。

家庭で交通安全について話すきっかけに

この「家族を守ろう!セーフティーセミナー」では、安全意識を家族へ広げてもらうことを目的としている。まず受講者自身が体験し、自分の安全につながってもらう。そして、受講者が自宅でタイヤ点検などを行うことで、受講者のクルマに同乗する家族を守ることもできる。さらに、家族に飲酒運転の危険性を伝えたり、子どもに自転車の点検方法を伝えることによって、家庭の交通安全意識を高め、事故防止につながることもできる。

この家庭で交通安全について話をしていただきたい。家庭から家族の安全を守ることに「つながってほしい」と馬場さんは期待する。



低空気圧のタイヤだと側面までも接地してしまい危険だということを指導員が説明した

読者の声



ご愛読者のみなさまへ

SJに対するご意見・感想をお寄せください! SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。

sj-mail@spirit.honda.co.jp

●静岡保護観察所 静岡県 工藤由紀子さん

保護観察所では、交通違反を繰り返すなどで交通短期保護観察処分となった少年を対象に交通講習を行います。クルマやバイクの走行で気をつける点を指導しています。SJにクルマやバイクの運転で注意すべきことが掲載されていると参考になります。

SJはすぐに活用できる情報やイラストなどが入っていて読みやすく良いと思います。また、高齢者や自転車の交通安全に役立つ情報が掲載されているので、もっと広く一般の方にも伝えていく情報だと思えます。製品を作っているだけではなく安全・安心な社会のために企業責任を果たそうというホンダの姿勢は素晴らしい。継続発展させていっていただきたいと思っています。